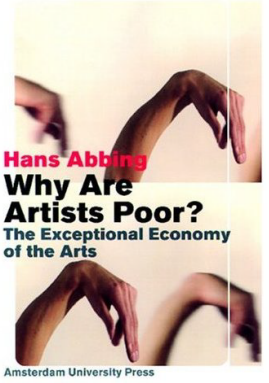
「お金のアート」から

通貨・貨幣という呪物

「こないだハンス・アビングの『金と芸術：なぜアーティストは貧乏なのか?』という本をよみました。とても明快な本ですが、あまりグッとくるフレーズがなく、そこがちょっとものの足りなかったのですが、それでも「芸術は経済の例外である」という結論には、大いに納得しました。資本主義がグローバル化したいまの世界は、ひとことでいえば、「金がすべて」で、なんでも「金がものをいう」世界です。こういう経済至上主義は、これまではもっぱらアメリカでの話だったけど、今はそれが世界中のあらゆる国やジャンルにまでひろがってきている。映画も音楽もそうです。そんななかで、アートと学問だけが、そうした経済の大洪水に流されずに、いまなお「例外地帯」として残っている。完全に商品化されない「例外領域」にふみとどまっている。こんなに何でもかんでも金がものをいう世の中で「金にならないことを夢中でやっている人たち」というのは、ある意味、非常に貴重な存在で、特に「金がすべて」という世界にうんざりしている僕のような人間にとっては希望ですらある。それはともかくも、ハンス・アビングはそういう「例外性」がアートや学問に「助成すべきもの」としての特別な価値やステータスを与えているのであって、政府や企業がアートや学問を支援するのは、その気高い理想やステータスに対してなんだと言っています。ところで、さっき「ヒモ」という話がでましたが、一般的にいって、助成金はヒモとは違うし、特にアートと学問の場合はどちらも「自立性」ということを重視するので、簡単に「ヒモつき」にはなりません。ここでいう「自立性」というのは、お金に左右されず、社会や時代にも左右されず、もちろん政治に左右されないという、そういう意味での「自立性」です。ありがたいことに助成する側もある程度、そうした学問とアートの「自立性」を尊重してくれるので、ほかのものにくらべ、学問とアートはお金の支配から「自由」であることができます。これは学問やアートのもつ「例外性」ともかかわっているので、この「例外」という部分は、ぜひ手放さないでほしいと思います。 もともと僕がアートが好きなのは、アートが「自由」だからです。特にいまは「お金」や「マーケット」から自由でありたい、それにしばられたくない、支配されたくないと思うので、お金やマーケットとは無縁の、あるいは、それに背をむけた反抗的でインディペンデントなアートが好きです。僕は何年も前に美術作家を「廃業」した人間ですが、廃業宣言のあとも表現活動は続けているし、廃業以前よりもかえって活発かもしれません。誰もがお金や見返りを求める資本主義と市場経済の世界のなかで、それに反抗できるのは「経済の例外」としてのアートと学問だと思うので、そのふたつの武器を合体させた無料で無報酬の「イルコモンズ・アカデミー」というのを「ギフト・エコノミー」の実験としてやっています（小田）。

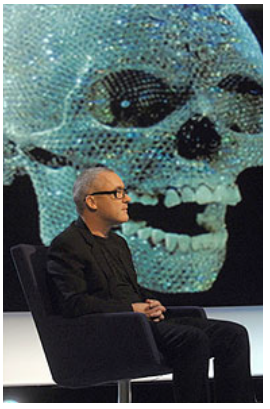
（「晩生―オクテ」07年5月 20日「アートとお金」発言録より）



▼ハンス・アビング
「なぜアーティストは貧乏なのか?
～アートの例外的エコノミー」

「お金のアート」へ

グローバル金融資本



▼ダミアン・ハースト
「神の愛のために」（2007）
（1400万ポンド）

[映画]
▼J・S・G・ボッグス
「ザ・マネーマン」（1992）

[出版物]
▼赤瀬川原平
「国家に捧げるコンセプチュアルアート」（1973）
（資本主義リアリズム講座第6回「紙幣類纂」より

[ヴィデオ]
▼ザ・K・ファウンデーション
「100万ポンドを燃やす」（1993年）＊時価1億7千万円

[映画]
▼アレックス・ギブニー
「エンロン」（2005年）

そして「もうひとつの世界」をみる

「僕たちの時代は文化の時代じゃない。僕たちが文化だと思っているのは、文化なんかじゃなくて、経済の文化なんだ。つまり今日では、人びとの暮らしは「経済」で起こっていることに左右されているんだ。「経済」で起きているのは、お金のプロセスと生産という事件だ。だから、お金の概念をまちがって考えてしまうと、破局を迎えざるを得ない。この出来そこないのひどい彫刻（＝社会）に介入するときには、適切なアクセスがポイントになる。それを美しい彫刻にするような介入が必要なんだ。この造形のモーメントを人びとが自分で体験できることが必要なんだ。個人でやっちゃいけない。未来ではすべてのことを人類は共同でやるべきだからね」（ヨーゼフ・ボイス）

▼ドイツ・ロストックでの反G8運動（2007）

[ヴィデオクリップ]
▼NLC「ミッキーマウス、ハイチへ行く」
▼イルコモンズ編「新たな宗教に抗する儀式的抵抗」
▼インディメディア「ブラップロック」
▼インディメディア「非暴力直接音楽行動」
▼インディメディア「誰がビッグパペットを怖れているのか」
▼ビッグノイズ・フィルム「キロメーター・ゼロ」
▼トム・ヘイデン「ニュージェネレーション・オブ・アクティヴィスト」
そのほか多数

「経済の例外」を造形する社会彫刻活動

「ひきょうだぞ!思想的変質者!犯罪とは名ばかりの芸術的な手口!」
（赤瀬川原平）

MAKE CAPITALISM HISTORY

【裏面の資料集も参照】